

『共犯者としての努め』

罪悪感や道徳的責任に関する考え

拷問を受けたすべてのパレスチナ人のために

カッディーシュを歌おう

そして

暗殺された数多くのコソボ民族のために

ゆっくりとワルツを踊ろう

何百万もの飢えたツチ族のために

詩を書こう

そして

奪い取られた民主主義のために

「マリアに栄光あれ」と、唱えよう

不条理を祝い

我々の深刻な無関心さや

人間の野蛮さを曝け(さらけ)出す

一つの儀式として

けっして許されることのない

一つの証として

おこなおう

- T Newfields (和訳: 吉田典子)

開始: 1999年 桃園 (台湾) 完成: 2015年 東京 (日本)

クリエイティブ コモンズ トリビューション ライセンス {{CC-BY-2.1}}





歴史の闇が徐々に明らかになり始めると
人々は過去に思いをめぐらし、

「なぜ この悪夢を許したのだろうか？」

「なぜ、ヒトラーの台頭と虐待を止められなかったのだろうか」
と、疑問を呈します。

満足すべき歴史の証言があれば、
このような質問も簡単に答えがでます
しかし、別のささやきも聞こえてきます：

「なぜ、現世の悪夢を止められないのか？」

今起こる血塗られた政治家の悪行を止めさせられないのか？」

私は
良心よりも快楽を優先し、
不正行為に無頓着な人々と
同じように罪深いのではないだろうか